



ま と は ず れ

# 的外



みのる法律事務所便り  
第 2 8 8 号  
平成 2 6 年 4 月

みのる法律事務所  
弁護士 千田 實

〒 021-0853

岩手県一関市字相去 57 番地 5

TEL : 0191-23-8960

FAX : 0191-23-8950



みのる法律事務所 <http://www.minoru-law.com/> [✉ minoru@minoru-law.com](mailto:minoru@minoru-law.com)

## サ コウ ジュウ (サービス付き高齢者向け住宅)



「どうせなら、『サ コウ ジュウ』にしたらどうですか」と言われました。私の自宅は、築 30 年になりました。この間、東日本大震災で、一時ドアというドアはほとんど開閉不能となりました。もうガタが来ています。敷地は、妻と二男が細々と営んでいる、不動産の賃貸業と私の駄文を発行する出版業を柱とする会社である株式会社エムジェエムの所有です。自宅建て替えの相談に乗ってくれている方が、「自宅を建て替えるなら、いっそのこと会社で『サ コウ ジュウ』を建てて、先生はその一角を借りて住んだ方がいいのではないかと提案してくれたのです。

「サ コウ ジュウ」という言葉は初耳でした。説明を聞いたところ、業界用語だそうです。正式には、「サービス付き高齢者向け住宅」ということだそうです。賃貸アパートや賃貸マンションの住人に対し、病院まで送迎したり、スーパーやコンビニの買い物に付き添ったり、食事を出したり、入浴のお世話などのサービスを提供するという内容のようです。時には、車椅子を押してあげることもあるとのこと。ただ部屋を貸すというだけではなく、お手伝いもしてくれるというもののようです。

私は、5月20日で満72歳となります。このようなサービスを受けなければならない年齢となりました。そこで、その方は「会社で『サ コウ ジュウ』を建てて、先生はそれを借りて住んだ方がいいのではないかと提案してくれたのです。「なるほど、それはいい」とすぐに納得しました。迷わず、「私がいちばんの客になる」と決断しました。その場で、会社に「是非やってほしい」と頼みました。

3人の子供もとっくに成人し、3人とも東京で生活しています。家族構成がすっかり変わりました。ミニ体育館まで入れると10を超える部屋があり、ト

新・憲法の心、黄色い本、いなべんの本は、出版社・エムジェエムの他、下記書店でも好評発売中です。

宮脇書店気仙沼本郷店 〒988-0042 気仙沼市本郷 7-8 TEL: 0226-21-4800  
[amazon.co.jp](http://www.amazon.co.jp/) <http://www.amazon.co.jp/> ~ 送料無料 ~





イレも3つもあるわが家は、妻と2人で住むのには掃除をするだけで大変です。そのため、いつも散らかし放題です。建物は古くなり、ガタガタです。住み心地は「悪い」の一言です。

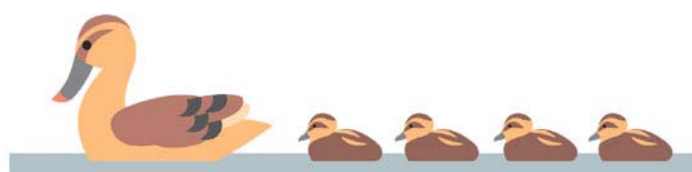
私は朝8時から夜7時までは、土日も祭日もなくほとんど事務所にいます。妻は56歳で現役大学生となり、ほとんど家に居ないのです。私も妻も、自宅ではほとんど寝るだけの生活です。台所と風呂と寝室とトイレだけあれば事足ります。他の部屋は全く不要です。子供達を育てるために建てた家は、いらなくなりました。老夫婦の住みやすい家に建て替えようと考えていました。

最近では、食事を1人で食べることも多くなりました。侘びしいと思うこともあります。「サコウジュウ」なら、頼めば食事まで出してくれるそうです。風呂も比較的広い共同風呂があります。買い物も手伝ってくれます。「サコウジュウ」には談話室もあるとのこと。茶飲み友達もできそうです。私は迷わず、妻と2人で住むスペースと、子供や孫が帰って来たときに泊まれるスペースを借りることに決めました。この年になって借金をして自宅を建て替えるよりも、賃料を払って使いやすい部屋を借りた方が得です。何の迷いもなく、「サコウジュウ」に住むことに決めました。

この場所は、立地条件は最高です。新幹線のホームまで歩いて2分で行けます。新幹線の乗降口と敷地の間には、市営駐車場があるだけです。現在でも、気仙沼市方面から新幹線を利用して出かける方が、連休などで市営駐車場が満車の場合、ご自分の名刺を置いて車を事務所の駐車場に停めて行くなどということも少なくありません。東京駅と直結している気がします。いつでも気軽に、東京にも仙台にも盛岡にも行けます。3歳の孫は、「東京から1人で帰れる」と言うほどです。私は、3月12日に東京女子医科大学病院（東京都新宿区）で午前9時から診察を受けるために6時48分の新幹線に乗るつもりでしたが、私も妻も、起床したのは6時30分を過ぎてからでした。いつもよりは少し急ぎましたが、それでも十二分に新幹線に間に合いました。

家を出れば、吸川すいがわに沿って遊歩道があります。川には愛くるしい鴨かもの群れもいます。美しい白鷺しらさぎも飛んできます。魚が泳ぐ姿も見られます。敷地と遊歩道は接続しています。庭にはさまざまな種類の小鳥たちが休みなく訪れます。2時間程度で東京駅に直結している新幹線の乗降口から徒歩2分という都会的一面と、野鳥が遊ぶ田舎的一面とが共存しています。

近くには、スーパーもコンビニもたくさんあります。外科、内科、歯科などの病院も集まっています。銀行も郵便局も、学校も保育園も幼稚園もあります。どこに行くのも徒歩で行けます。足が不自由な方は、車椅子を押してもらえば自分で用事を済ませることが出来ます。





このような場所に「サ コウ ジュウ」、つまり、サービス付き高齢者向け住宅があったら、私に限らず利用する方が必ずおられるはずです。子供は東京や仙台で第一線で働いており、「年老いた親が心配だが、思うように面倒を見られない」という方が大勢おられます。子供は、そのような親を大きな家に2人だけで、場合によっては1人だけで住ませることは気がかりです。親の方も不安になることがあります。この場所なら、週に1回くらい子供が親を訪ねたり、親が子供や孫のところへ出向いたり、容易にできます。この場所なら、「サ コウ ジュウ」として必ず役立ちます。「なぜ、今までそれに気づかなかっただろうか」と不思議に思うようになっています。

単に部屋を貸すというだけではなく、この「サ コウ ジュウ」の住民は、自分の部屋に入ればプライバシーを守れますが、共有部分では食事を共にし、お茶を楽しみ、風呂で談笑したりできます。時には一緒に散歩をしたり、句会や読書会もできそうです。そんな風に考えたら、ワクワクしてきました。会社には、入居する方を「協調性のある方」を中心に厳選してもらい、入居者間でトラブルになったり、嫌な思いをしなくて済むようなルールを創ってもらい、「楽しみ合うこと」、「助け合うこと」を目指す「サ コウ ジュウ」にしてもらうのです。「高齢者向け住宅」と言いますと、なんだか「姥捨山<sup>うばすてやま</sup>」のイメージもありますが、そうではなく、皆で楽しむための場所にしたいのです。飾って言えば「サロン」にしたいのです。お茶を飲んだり、談笑したり、趣味を楽しんだりする場にしたいのです。若い方に入ってもらうことも問題ないのです。大都会から単身赴任してくる方にも利用してほしいのです。

私は、入居者の第1号になることを決めました。同じ思いの方がおられましたら、どうか一緒に住んでみませんか。まだ入居条件などは具体的になっていないようですが、株式会社エムジェエムはこの計画を実現することに決めたようです。

住む方の希望により、夫婦用の部屋、1人用の部屋、サービスを必要とする方、必要としない方など、それぞれの要望に添って、これからレイアウト、つまり、建物の構成を考えるとのことですから、ご希望があれば応じてくれるようです。私は、私と妻の部屋と、子供や孫が帰ってきたときの部屋と、その部屋と部屋の間には台所、風呂、トイレなどの共用スペースを借りたいと申し入れました。「終<sup>つい</sup>の棲家<sup>すみか</sup>」とするつもりです。少し広く借りるつもりです。それでも建て替え費用と比べれば安くあがります。

各部屋の住人のための共用スペースとしては、食堂、談話室、広めの風呂なども設ける予定とのこと。コーヒーくらいは飲めるようなスペースも造り





たいとのこと。なにせ、「サービス付き」なのですから、サービスを提供するスタッフは置くそうです。ただ、介護施設ではありませんので、寝たきりの方などのお世話まではしないとのこと。入居者の中でこのような状態になってしまった方のためには、病院や施設と普段から連絡を取り合って体制を整えておくとのこと。

この計画は、自宅を建て替えようとしたことをきっかけに持ち上がったものです。「私が新しい家を建てるより、会社が建てて、それを借りた方が無駄がない」という発想です。「私と同じような考えの方もおられるのではないか」と考えた結果、「少し大きめに建てて、そのような方にも貸してはどうか」というところまで話が大きくなってしまったのです。

気の合う仲間が集まって、プライベートを守りつつ、共同生活ができたならば、楽しい老後になるのではないのでしょうか。協調性があり、楽しい老後を送りたいという方は、是非一緒にやってみませんか。ここに入居していただく方に特別な条件はないようですが、「人柄のいい方」、「皆と仲良くできる方」が望ましいと思います。第1号の利用申込者としては、そのことだけは会社にお問い合わせするつもりです。

このように申し上げてきますと、株式会社エムジェエムの事業の宣伝のように聞こえてしまいが、弁護士として多くの仕事を通じて、まだ介護までは必要ないが、老夫婦だけの生活や、一人だけの生活に不安を感じている方が多くおられることを知っていますので、そのような方のお役に立ちたいとの思いもあります。



## 『新・憲法の心』

今回は、**第8巻『石破茂氏の「日本人のための集団的自衛権入門」に対する反論』**を謹呈させていただきます。

内容はお読みいただければわかりますので、ここでは触れません。ただ、石破氏のこの本は、「**集団的自衛権入門編**」と「**集団的自衛権対話編**」とに分かれています。「**入門編**」は、集団的自衛権に関する知識の部分です。これは、すでに謹呈させていただきました拙著・**第6巻『集団的自衛権』**とほぼ同じ内容です。私の本で十分だと思います。「**対話編**」における石破さんの考え方と、私の考え方とは「**水と油**」です。些か乱暴な言葉遣いまでしてしまいましたが、絶対に妥協できない内容となっています。お目を通していただき、どちらに賛同されるか、感想をお聞かせいただければ幸甚です。

